

1. 竣功後の東秋留橋全景(右岸下流側より望む)

東 秋 留 橋

東京府土木部橋梁課技師 南 保 賀

1. 沿革並に計畫

本橋架設位置は奥多摩の名勝所謂秋川溪谷の下流に當り、秋川が多摩川本流への合流點より約2kmの上流地點にして、府縣道第292號東秋留停車場北開戸線西多摩郡東秋留村地内秋川に架すものである。本路線は近來重工業地帯として發展途上にある西多摩福生村より東秋留村、南多摩郡加住村を経て八王子市に至る重要府縣道であるが、架橋地點は從來假棧橋により連絡を保ち居れるところ、出水の際常に流失し去り交通杜絶の他なきに鑑み、地元民多年の要望を容れ、昭和11年11月着工當初翌12年9月竣功の予定であつたが、別項の如き事情で竣功は本年8月となつた。

2. 設計概要

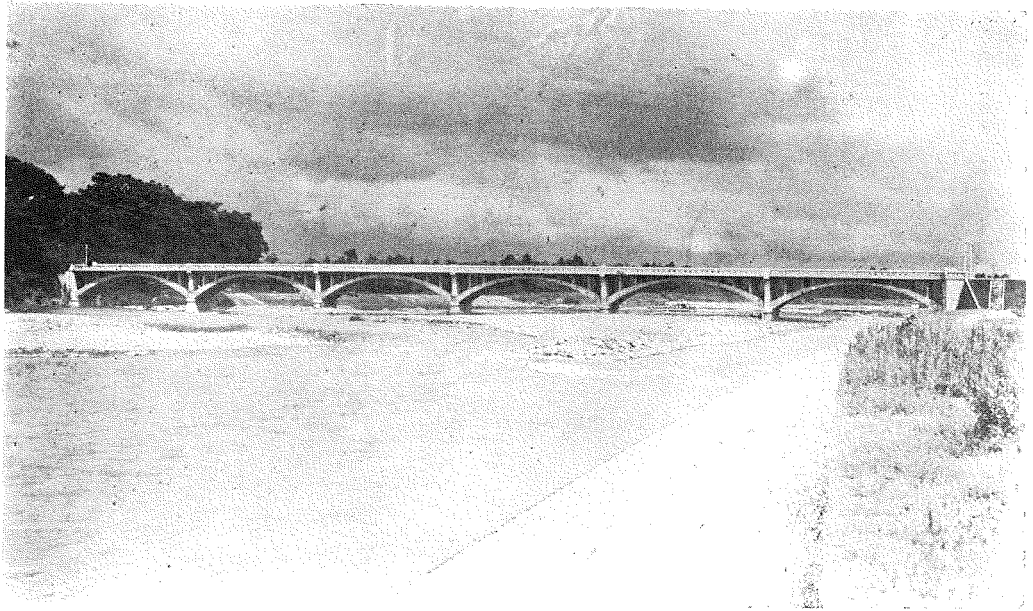
1 位 置 東京府西多摩郡東秋留村雨

間地内秋川に架す。

- 2 路線名 府縣道第292號東秋留停車場北開戸線
- 3 橋長及幅員 總經間 149.70m
有効幅員 5.50m
橋面積 823.35m²
- 4 型式 鐵筋コンクリート開腔拱橋
支間 25.0m 6連
- 5 橋脚 橢圓形鐵筋コンクリート井筒長 5~7.5m 5基

3. 工事概要

昭和11年11月工費63,800圓を以て着工した。架橋地點の地質は上層約4m砂利層にして以下は所謂滑層と稱する硬質黄色粘土質砂層にして之に礫を混入するものである。寫眞の如き連續拱を選べる關係上、井筒基礎をこ



2. 竣工後の全景(下流側より望む)

の層へ少くとも 1.0m~3.0m 沈下せしむる必要を感じてゐたのであるが、請負人は適當なる機械器具を有せず姑息なる工法を採れり、再三再四の水害に遭ひ幾多の手戻りを生じ、且つ今次の事變の影響にて物資の調達意の如くならず、諸物價の高騰、勞力の不足殊に農繁期の不足は顯著なるものあり、設計變更を行ふこと三回に及びたるも、屈せず遂に本年 8 月竣功を見たる次第である。但し所要鋼材 94.1ton は起工當初直ちに請負人に於て購入したるを以て、鋼材の價格騰貴並びに物資統制は、鋼材に關する限り何等の支障とならなかつたことは幸であつた。

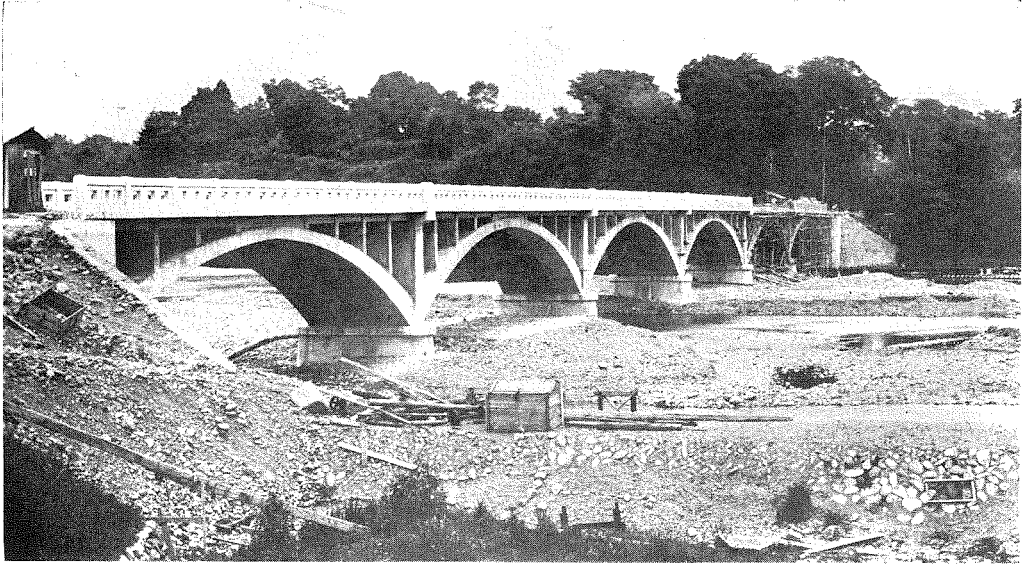
4. 工事費

起工當初の請負金は 63,800 圓であつたが、

設計變更の結果 59,030.64 圓となつた。この工費内譯を示せば次の通りである。

a. 橋臺工	2基	7,691.31圓
b. 橋脚工	5基	22,596.55
c. 橋體及高欄工		25,395.33
d. 鋪裝工		693.01
e. 親柱及路掛石工		825.26
f. 人止柵工		108.68
g. 電燈工		552.47
h. 取付道路工		1,166.03
合計		59,030.64

以上の中取付道路工を除く 57,865.61 圓につき橋面 1 平米當り單價を算出すれば、70.3 圓/m² となり非常なる安價についてゐる。



3. 工事中の東秋留橋全景(右岸下流側より望む)

東 秋 留 橋

